

製品名: c-Myc ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09096**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	50,(also ~60kDa in some samples)

抗原情報

遺伝子名	MYC
別名	MYC; BHLHE39; Myc proto-oncogene protein; Class E basic helix-loop-helix protein 39; bHLHe39; Proto-oncogene c-Myc; Transcription factor p64
遺伝子 ID	4609.0
SwissProt ID	P01106
免疫原	抗血清はヒト MYC 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 386-435

背景

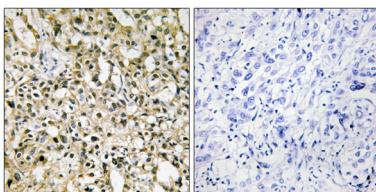
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞周期の進行、アポトーシス、および細胞形質転換において重要な役割を果たす

多機能核リン酸化タンパク質です。特定の標的遺伝子の転写を制御する転写因子として機能します。この遺伝子の変異、過剰発現、再編成、および転座は、バーキットリンパ腫を含む様々な造血腫瘍、白血病、リンパ腫と関連付けられています。上流のインフレーム非AUG (CUG) 開始部位と下流のAUG 開始部位からの代替的な翻訳開始により、異なるN末端を持つ2つのアイソフォームが生成されることを示す証拠があります。バーキットリンパ腫では非AUG 開始タンパク質の合成が抑制されており、この遺伝子の正常な機能において重要な役割を担っていることが示唆されています。[RefSeq 提供、2008年7月]疾患: MYCに関連する染色体異常は、ある種のB細胞性慢性リンパ性白血病の原因となる可能性があります。BTG1との転座t(8;12)(q24;q22)。疾患: MYCの過剰発現は、様々な造血腫瘍の病因に関与している。機能: 遺伝子転写の調節に関与する。非特異的にDNAに結合するだけでなく、コア配列5'-CAC[GA]TG-3'を特異的に認識する。増殖関連遺伝子の転写を活性化すると考えられる。オンライン情報: Myc エントリ、PTM: PRKDCによってリン酸化される。類似性: 1つの基本ヘリックス・ループ・ヘリックス (bHLH) ドメインを含む。サブユニット: 効率的なDNA結合には、別のbHLHタンパク質との二量体形成が必要である。MAXとヘテロ二量体としてDNAに結合する。TAF1CおよびSPAG9と相互作用する。PARP10と相互作用する。KDM5AおよびKDM5Bと相互作用する。

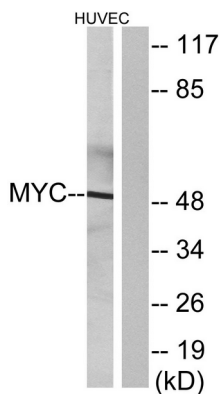
研究分野

幹細胞経路; Cell_Cycle_G1S; Cell_Cycle_G2M_DNA; WNT; WNT-T細胞; β -カテニン; ErbB/HER; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; PI3K/Akt; Protein_Acetylation

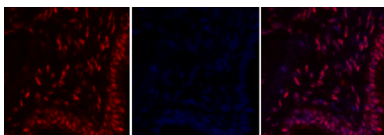
画像データ



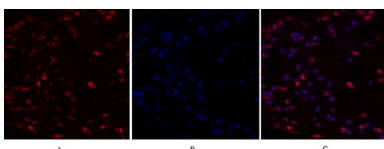
MYC抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肝臓組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



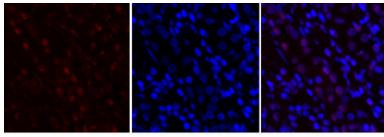
MYC抗体を用いたHUVEC細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



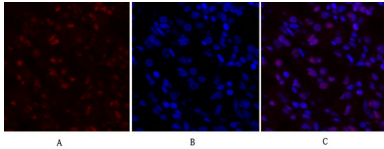
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, c-Mycポリクローナル抗体(赤)を1:200に希釈(4°C、一晚)。2, Cy3標識二次抗体を1:300に希釈(室温、50分)。3, 図B: DAPI(青)10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bの合成。



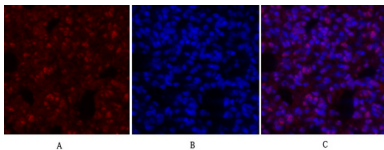
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, c-Mycポリクローナル抗体(赤)を1:200に希釈(4°C、一晚)。2, Cy3標識二次抗体を1:300に希釈(室温、50分)。3, 図B: DAPI(青)10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bの合成。



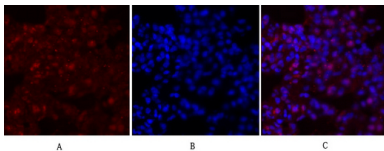
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, c-Myc ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



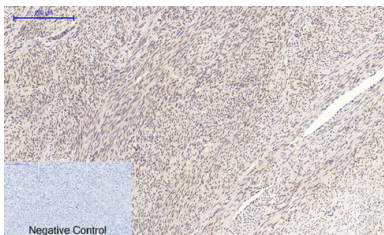
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, c-Myc ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, c-Myc ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, c-Myc ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. c-Myc ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。